

第8回 港南区災害ボランティアネットワーク連絡会 報告

日時:平成28年12月9日(金)13時30分～

場所:港南区福祉保健活動拠点

1. 日野南中地域防災拠点HUGの実施報告(5分)

- ・グループメンバー同士が顔見知りであり、各グループにリーダー格がいたので、スムーズにいったよかった。時間が少なかったのもつたいないと感じた。
- ・進行役がフィードバックするための書式と、HUG実施にあたって準備してもらいたいものをまとめたものを作成したらよい。
- ・フィードバックするためには、リーダー係と記録係の2人が必要ではないか。
- ・HUGを通して、災ボラとして何を伝えたいかのを災ボラの中で共有できていけばよいと思う。

2. まちあるきについて(5分)

日時:1月27日(金)10時～ 集合場所:港南区社協

行先:Aコース 上大岡小→桜岡小 参加者:稲葉、上山、山根木、小川、風間

Bコース 南台小→笹下中→日下小 参加者:竹森、井出、樋上、森岡

Cコース 永谷小→永野小 参加者:山本、村田、川辺、尾崎

Aコースに風間さん、Cコースに尾崎さんが追加となった。

3. 今年度事業のふりかえりと次年度の取組について(20分)

事務局より別添に基づき説明後、意見交換。次回に事業計画案を作成し提示することになる。

○主な意見

【拠点への周知について】

- ・ボランティアの活動時間が日中だけと認識されていないので伝える必要がある。
- ・災ボラが何をやる団体かについて浸透していない。どのように周知していくかを考える必要がある。
- ・拠点の運営訓練の一部にHUGを入れてもらうように提案してはどうか。
- ・災ボラについて、活動の周知ができる場が必要。
- ・拠点とのつながりをしっかりしておけば、コーディネートをするときに楽だと思う。
- ・被災規模が大きいと、地域の人以外の、より多くのマンパワーが必要。
- ・拠点の方の今の認識では、はなからボランティアに来てもらう想定はない。
- ・拠点の方に、発災後4日目以降にボランティアがくると説明が必要。
- ・総会では、せっかく委員長に来ていただいているので、ただ話を聞いてもらうだけでなく、意見交換をする場面を設定してはどうか。
- ・発災した時には、連絡のやりとりは想定通りにいかず、省略される形になると思う。
- ・時系列で災ボラ、区災害対策本部、拠点間の連絡体制がどうなるのかを整理したらどうか。
- ・拠点がボランティアを受け入れる体制ができていない。受け入れをする訓練をもらった

らどうか。

【災ボラの運営について】

- ・災ボラの基本的な活動内容と、条件の確認を共有する。
- ・シミュレーションを行い、災ボラ運営の基本を確認しわかっていないと、実際に運営できない。
- ・まちあるきは続けたほうがよい。わからない場所が多い。
- ・マッチングする場所などの災ボラのレイアウトを確認した方がよい。
- ・災ボラがなにをする場所なのか再確認をする必要がある。

4. その他(10分)

- ・鶴見区災ボラ シュミレーション への参加者は後日連絡を事務局までしていただく。
- ・栄区災ボラ 記念誌、市災ボラスキルアップ研修の資料の回覧を行う。
- ・第2回 港南区地域防災拠点運営委員会連絡協議会で拠点に災ボラが訪問して行った内容について説明をすることになる。

5. HUGの練習(50分)

→時間がないため、次回以降に持越し。

★次回：

まちあるき 平成29年1月27日（金）10時～港南区社協
平成29年2月10日（金）13時30分～港南区社協 同日まちあるきのふりかえりを実施。